



題字 廉隅 進

針生山荘竣工30周年記念に思う事

実行委員長 BN 661 大賀 徹雄

針生山荘には竣工式から15年、20年、そして今回の30周年記念とすべて参加してきました。他にもなため会のワンデルングや、先輩の山の会等々で十数回入荘していると思います。今回の実行委員長も、竣工まで苦勞奔走していただいた先輩が、若しくは竣工当時現役だった若手OBにお願いしてはとアドバイスをしたのですが、廻り回って引き受けることになりました。

さて私も15周年のときは、実行委員として当時の鈴木幹事長（現会長）からのお声掛けで、諏訪本山小屋委員長（現監督）と3人で地元への挨拶回りや事前手配など準備した中で、当時入荘していた現役への苦い印象を改めて思い出します。

当日は実行委員として早めに入荘したのですが、1階で雑談していた現役と顔を合わせても挨拶もなかったことに啞然（50半ばの地

第 54 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

元のおっさんと勘違いしたのか？、さらに朝食の準備でも1名を除いて2Fの布団部屋に引きこもっているの、コーチや若手OBを差し置いて直接指示してしまった事など、当時の現役の意識の低さに愕然としました。

30周年記念なのになぜ冒頭にこのような事を書くのかというと、思い起こせば我が部最大の危機は、20年前の4大合Wでの部員の死亡事故と、そのために1年間休部せざるを得なかった事などで部員が激減し、2年後には13名まで落ち込んでまともな部活動が困難な状況でした。平成10年から7年間は、部員が15名前後でMWVがかつてない低迷期間が続きました。15年前はちょうどその期間だったわけで部員の意識、スキルがまともに身につかなかったのかなと感じざるを得ませんでした。

しかしその後は、引き続き監督やコーチの熱心な指導となため会のバックアップ、それと現役部員の真剣な部活動も相まって順調に部員数を増やし、直近の部員数は引退した4年生を除いても50名を確保していると聞いています。今春の新入部員を含めたら良くぞここまで復活したなと我々OBも素直に手ごたえを感じています。

今回は公式部活動ではないにもかかわら

ず、準OBも含め現役が16名も参加協力しています。15年前の印象は忘れましよう、復活した現部員の好印象に実行委員長を引き受けた甲斐がありました。

今回の30周年記念式典には、遠隔地にもかかわらず80才以上のOB4名を含む43名、現役16名、地元来賓4名の計63名の参加となりました。実行委員メンバーの事前準備と現地対応で大いに楽しんで頂けたと思います。

私も一昨年古希を迎えました。まだかなり先の話ですが6年後には奥鬼怒山荘60周年、次回9年後の針生山荘40周年にも参加できるよ、特にベテランOBの方々には健康に留意していただき、復活したMWVと今後の若手OBが主導するなため会のもとで再び参加できたらと私も一縷の望みを抱いていますので、宜しく願います。

最後に、同期の吉沢OB（BN 663）から、奥鬼怒山荘も含めて今回で3回目の記念帽子を現役全員も含め無償提供して頂きました、感謝です。

■針生山荘料金改定のお知らせ

大学当局の指導により他の施設と使用料を合わせるため、昨年の4月1日から左記の通り使用料を改定しています。

旧料金	現料金
部員 7000円	5000円
学生 7000円	1,000円
OB 7000円	1,000円
一般 7000円	2,000円

尚、奥鬼怒山荘は従来通り上記料金とは別に、燃料チャージ2,000円/日が必要です。
申込み並びに料金のお支払いについては、各小屋係にお尋ねください。

明治大学針生山荘竣工30周年記念の集い

■日時 2016年10月22日(土)～23日(日)

■場所 明治大学針生山荘

■式次第 (敬称略)

22日

祝宴

17:00 受付
18:00 OB会長挨拶
来賓紹介
来賓挨拶
乾杯
ご歓談
19:20 中締め
19:30 点火式
21:00 お開き

23日 記念式典

9:30 来賓挨拶
部長挨拶
実行委員長挨拶
監督挨拶
主将挨拶
乾杯
部歌 斉唱
校歌 斉唱 (エール)
(写真撮影)

11:00 お開き

■出席者：63名

●来賓：4名

南会津町 副町長 渡辺龍一 様
針生区長 きのこ屋主人 星 喜弥 様

地主・管理人 星 富喜 様
奈良屋 代表取締役 猪股裕一 様

●会員：43名

部長 長峰 章	228 島林 順三	299 大内 善一	339 足立 康弘	345 吉田 修	392 内田 吉成
393 植木 正子	451 山田 祥二	山田 昌子	483 羽部 隆	484 中田 弘	501 前田 芳弘
505 椎橋 稔	532 鈴木 正彦	558 奥倉 勇一	594 秋元 道別	597 大洞 聰	601 池上 勝彦
661 大賀 徹雄	705 杉山 裕	719 鈴木 幸代	728 横尾 廣志	751 諏訪本充弘	764 高橋 寿子
775 小田野義之	795 濱田 稔	817 和賀井英雄	835 猪狩 稔	871 平田 正博	897 山下 仁志
1018 鈴木 裕文	1022 高取 克好	1060 小野崎泰寛	1063 林 隆郎	1064 井上 堅一	1065 斎藤 宏
1075 清水 晴日	1115 上原 誠	1174 尾崎 剛史	1226 杉山 文啓	1273 浜口小百合	1296 前川 晃慶
2120 鈴木 元典					

●学生：16名

準OB 松田彩友美 (前主将)	準OB 永田 真帆 (前主務)	準OB 近藤 諒生 (前針生係)
準OB 神内 亜実 (前針生係)	4年 福士 嶺 (主将)	4年 落合 祐太 (主務)
4年 二宮竣之輔 (針生係)	4年 宮入 浩 (針生係)	4年 森下 立基 (針生係)
4年 伊藤 嘉音	4年 野神 宏太	4年 二見 遼
4年 村上 彪馬	4年 山下 寛生	3年 今井 幹登 (針生係)
3年 福澤 光浩 (針生係)		



針生山荘30周年に寄せて

BN 1022 高取 克好

竣工時の4年部員（昭和61年度卒）を代表して同期鈴木と共に「針生山荘竣工30周年記念の集い」へ参加しました。

針生山荘を訪れるのは27年ぶりでしたが、周囲が鬱蒼としたスギ林になっており、非常に驚きました。一瞬、奥鬼怒山荘かと思うほど、印象が変わっていました。建設当時、記録のために節目節目で敷地の南側の尾根に登って全景を撮影していました。今回、同じ角度から写真を撮ろうとしましたが、見通しが全く効かなくて断念するほどでした。改めて30年の時の流れを感じました。

山荘自体は外観も中身も昔のままで安心しました（特に炬燵は昭和のまんまです）。

入部した頃は、まだ草津白根山小屋は健在ではあるものの、既に針生移転は決まっていたという状況でしたので、三つの小屋を使うことができるという幸運に恵まれました。現役四年間で、各小屋10回ずつ訪れています（針生山荘は建設前ですが）。

昭和59年度に新小屋係（BN 963 池田和洋OB）が設置され、翌昭和60年度、草津・新小屋係（BN 990 駒場智行OB）、それから私に繋がりで、「新山荘係」チーフとして、地鎮祭から上棟式・竣工式まで担当しました。

小屋チーフとしては竣工式当日の夜だけしか担いませんでしたので、ずっと針生山荘O

代チーフを自認してきました。祝宴の際、歴代チーフと並んで挨拶することができました



地鎮祭開始前に現役一同で記念写真

が、これで公式に認められたものと思っています。今回は一部に留まりましたが、30名弱の小屋チーフとその倍近くの小屋サブがいると思うと感慨深いものがあります。

最初に針生を訪ねたのは、昭和60年7月、新山荘建設予定地の視察です。OB鹿嶋さん、主務土田さん、同期齋藤哲と一緒に。どんな小屋にするかということで、芳賀沼製作さんのログハウスを数棟見に行っています。芳賀沼さんの「丸太小屋は男の夢です」という言葉が心に残り、現役部員で小屋を組み立てることを夢想しました。しかし、費用の関



上棟式当日



竣工時の雄姿

係もあり、今のデザインで大桃建設さんをお願いすることになったと聞いています。

また、奥鬼怒山荘竣工後20数年という頃で、ボッカ合宿の話をよく伺っていました。同じことを針生でもできないかと考えていましたが、建設予定地の横まで車道が通っている状況では、刈り払いと式典のサポートが精一杯でした。刈り払いについては、リーダー養成Wの途中で2回（S60、61）、正部員養成Wの

途中で1回（S61）、地鎮祭の計4回行っています。私自身は住み込んででも建設に関わりたと思っていましたが、家庭の事情で断念せざるを得ませんでした。

東京においては、OB会の資金集めの手伝いを行っています。資金集めが難航するなか、OB会から、現役の父兄から寄付を募ろうという話が出てきました。今でこそ普通のことでしょうが、当時は皆、親にそんなことは頼めないという雰囲気でした。卒業してOBになつてから協力するので、それだけは勘弁してくださいと懇願した記憶があります。針生山荘の恩恵を享受したOBの皆様におかれましては、少なくともOB会費はきちんと納めて頂くよう、よろしくお願い致します。

去年の創部80周年記念W準備の際、同期松尾のアルバムの中に竣工式の祝宴の写真を見つけました。その写真を見て、片付けの際、飲み残しのビールを使ってビール掛けもどきをやったことを思い出しました。偶然ではあります、この年もカープが優勝（日本一は逃し山本浩二引退）しています。

祝宴後は、当日のメモに「全員浮かれていたが、最低限のけじめはついていた」と反省を記すほど弾けていました。同期Y口はいつものこととして、普段もの静かで温厚なK崎まで壊れてしまい、夕食の時、押し入れに閉じ込めたことを思い出します。

結局、針生山荘チーフとして仕事をしたのはこの夜だけでした。それが心残りで、みんな

なが帰ったあと一人小屋に残りました。竣工式当日は小雨交じりでしたが、帰る時は快晴だったことをよく覚えていています。

最後になりましたが、針生山荘に関わった多くの方々に感謝申し上げます。ありがとございました。特にきのこ屋さんには現役の時、大変お世話になりました。長い間、不義理をして、申し訳ありませんでした。今回お目にかかることができ、胸のつかえが下りました。

針生山荘の益々のご発展を、遠く九州の空から祈念しています。

斎藤山に登ってきました

BN 1273 浜口 小百合

先日の針生30周年記念式典の折、式典入りする前に斎藤山（福島県南会津1,278m）に登らないかとお声がけいただき、登ってきました。

10月26日（土）晴れ。朝10時に会津長野駅に集合すると、新潟から車を飛ばして来た方、東武浅草駅から鉄道で来た方と様々です。かくゆう私は金曜夜に仕事場から会津に向かい、大学時代の友人宅で一杯やってから来ました。金曜夜発で週末遠征に行くときは、40Lザックを背負って裏口からコソコソと出勤しています…

斎藤山の麓には集落があり、駅から歩いて登山口までいけるといふ非常にアクセス良好



な山です。なにより名前がちよっと珍しいですよね。全国のサイトウさんが集まる登山イベントも開催されたことがあるんだとか。

さて、齋藤山には雷神様コース(4.5km)と早生栗コース(4.3km)の2つのコースがありますが、今回は雷神様コースから山頂を目指しました。日差しの暖かな日でしたので、なだらかな登りながらも、歩くと汗がにじみます。しばらく登っていくと、雷神様コースと早生栗コースが合流する見晴台(935m)に到着。見晴台からは集落が一望でき、紅葉の山肌を眼下に眺めながら昼食

を取ることができました。

昼食後は山頂を目指します。急ながら道は整備されており、危険な箇所はありません。様々な種類の樹木があり、植物には名前が書かれた看板がつけられています。地元の人に親しまれている山なのだなあと、思いつつ登りきると、鉄塔と反射板があり、その先にはひらけたヘリポートがあります。そこから頂上までは数分。頂上からは男鹿岳、荒海山を見ることが出来ます。集合写真だけとってヘリポートへ引き返してからしばし休憩をとります。ヘリポートからは会津の山々の大パノラマが展望できました。皆さん写真を撮ったり寝たり酒呑んだりと自由に過ごします。

20分ほど休んでから下山開始。見晴らし台までは来た道に戻り、早生栗コースへ降ります。途中、早生栗の大きな木があり、農道を歩きリンゴ畑を抜けると駅が見えてきました。刈り取り後の田んぼ沿いの道を歩き、集合場所の駅まで戻って温泉で汗を流し、針生小屋へ向かったのです。

参加者 (BN) 吉田 (345)、羽部 (483)、中田 (484)、椎橋 (505)、鈴木 (532)、奥倉 (558)、杉山 (705)、鈴木 (719)、横尾 (728)、鈴木 (2120)、井上 (1064)、齋藤 (1065)、浜口 (1273) 以上 13名 (敬称略)

コースタイム 会津長野駅 10:25 - 見晴台 11:45 / 12:30 - 齋藤山 13:20 / 13:30 - ヘリポート 13:35 / 13:50 - 見晴台 14:35 - 会津長野駅 15:30 //

TAXI きらら289 (入浴) // 針生山荘

笹の会 in 手白沢温泉&

明大奥鬼怒山荘

BN 532 鈴木 正彦

我々のワンダーフォーゲル連盟同期の「笹の会」で手白沢温泉と明大奥鬼怒山荘を訪れました。

今回の参加校は、NWV(日大)、CWV(中大)、KWV(慶応)、MGWV(明治学院)、DWV(同志社)、MWV(明大)です。参加者からの感想文を紹介します。

☆鈴木様 MWVの皆様

写真と会計報告書頂戴いたしました。

元気な爺さん集団、同じような顔をしています。

素晴らしい企画、楽しい二日間ありがとうございました。

二日間の晴れは幹事の皆さんの日頃の行いの良さと思っています。

健脚の四人衆様

その行動力と元気さは羨ましい生涯の目標です。

川井さん、次回を楽しみにしています。

CWV 狩野 勇夫

☆心配した雨・熊にも遭遇せず、静かな山行が出来大変満足しております。

また、監督さん現役の皆さまとの交流想

い出の1ページになりました。
皆々様に宜しくお伝えください。

NWV 濱崎 茂

☆幹事役お疲れ様でした。

写真、会計報告拝見いたしました。

天候に恵まれ良かったですが、今回私にとつては結構きつい山行でした。

ただ貴校奥鬼怒山荘を見学させて頂き、皆さんが学生時代に汗水たらして

この険しい場所に機材を運び入れ建設されたと同じ、その苦勞に感動すると共に今でも立派に活動の場を提供しているのは素晴らしいことです。

漸く足の痛みもとれはじめましたので、普段の生活に戻りたいと思っています。

本当にありがとうございました。

NWV 沼賀 泰二

☆このたびは何につけ行き届いたお手配を頂き、楽しい時間を満喫しました。

また早速の写真（元氣印一杯！）、会計報告を頂戴し恐縮です。

重ねて御礼申し上げます。MWVの歴史と伝統、それを引き継ぐ人々に乾杯！！

次回は幹事の端くれとして微力ながら頑張ります。

DWV 武藤 勝一

☆笹の会では、大変お世話になりました。ありがとうございました。

思いのこもった地とはいえ、万全のご準備のお陰で本当に楽しい旅をさせていただきました。

手白沢温泉から山荘へ。そして手白沢橋までの監督さんと現役の皆さんの誘導は心強いものでした。ご配慮ありがとうございました。

明大OB始め、現役の皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。お礼まで。

追伸・・来年一生懸命やります。一人でも多くのご参加をお願いします。

明大山荘・・「伝統校MWVのレガシーを見た」

50年以上たった今でも立派に維持管理されているのは、貴校代々の伝統が受け継がれ、愛情が注がれているからだ、と感じました。素晴らしい、是非大切に！！

追伸・・煙が充満してしまうのは、煙突の掃除が不十分だからです。

「定期的煙突掃除」で二階も使えるようになりますよ。

MGWV小屋の経験から

この話は小屋にいた現役学生にもしておきました。

MGWV 川井 宏作

☆幹事校の皆様

楽しい笹の会ありがとうございました。

乗車券忘れるの大失態してご迷惑おかけしました。

楽しい情報いただき 次回お会いできるの



を楽しみに。

NWV 辻野ドラ

☆皆様のお陰で大変楽しい笹の会となりました。

久しぶりに訪れたMWVの奥鬼怒山荘も大変懐かしくまさに「古びし我が山の小屋」という良い小屋でした。

違った学校のOB達が一堂に集うというのはワングル仲間ではほとんどないと思いますので、今後とも大切にしていきたいと思っています。

それから、我々4人組は皆さんにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

ただ久しぶりに緊張感を持った楽しい山行をする事が出来ました。

来年も楽しい笹の会が出来るように皆様、体に気を付けて健康な一年を過ごそうではありませんか。

取り急ぎ御礼まで！ K W V 藤井 祥彦

☆K W Vの同期の合宿があり、出かけており、御礼が遅れました。細かなご配慮に感謝しております。

小屋を拝見し、監督や現役の方とも交流の機会もあり、思い入れのある小屋なんだなあ、と感慨ひとしおでした。

学校は違っても共通した経験を持つ我々にはなにか通じ合うものがありますね。

又の機会を楽しみにしております。

K W V 河合 國尚

☆色々有難うございました。写真、会計報告、動画拝見しました。

楽しい山行でしたがちよっとキツカッタです。本当に感謝です、有難うございました。

N W V 夏目 晏子

会津の山、二山

昭和五十一年度卒 情断会秋の山行

BN 775 小田野 義之

十月初の土日、我々は定例会として長野の山をキャンプ泊で計画していたのだが、九月の土日はずっと天候が思わしくなく、その流れは止まらず当日の予報も悪いと出た。しかも車でアプローチするはずの林道が通行止めときた。已む無く、そこそこの天気予報だった会津へ鞍替えした。会津とくれば針生山荘に泊まる案がベスト。3週間後にある山荘の三十周年記念式の前に、玄関付近に営業して脅威となっているスズメバチの様子も確かめられる。スズメバチを掻い潜って入荘できるのか、管理人の星さんに電話すると、やはり表玄関は危ないので反対側を空けておくから、という嬉しいご返事。メンバーは高島が抜けたおかげで窮屈なドライブをしなくて済んだいつもの四人。

十月一日、小野岳。私の車で東北道を白河ICで降り、大内宿を目指す。大内宿は、ここだけが突然沸き立つような騒々しさで、駐車場に入る車だらけで大繁盛を呈していた。我々は冷笑を浮かべながら通り過ぎ、すぐ先の林道をガタゴト登って小野岳登山口に着く。先行の車がやっと一台。南側の湯野上温泉からの登山道もあるが、これは静かな山になるな、天気もまあまあだし、とニンマリ。

初めは暗い杉の植林の道を登るが、まもなくブナ等の広葉樹林に変わり、山頂（は見えないが）付近の稜線が見えてきて、なにやら少しだけ紅葉らしき色も混じっている。登るにしたがつて天気はますます上々となり（原田と一緒にいるせいだろうが）、気分も上々に高まってくる。他の登山者と全く会わないので、宮澤のいつものおしゃべりに拍車がかかる。二時間半も登ると小野岳山頂で、先行者



一組、まもなくもう一組登ってきた。遠く会津磐梯山や飯豊山もくっきりと見える。昼飯を摂って早々に下山。四時間程度の山は健康にとってもいい気がする。

大内宿から1時間もかからずに針生山荘に着く。途中で安い立ち寄り湯(三百三十円・石鹸等なし)に入り、田島で夕食やらビールやらを適当にゲットして、早速、懇親会に突入した。針生山荘が初めてという小川、2回目だという宮澤も含め、テント泊より断然ラクチンな屋根のある暖かい部屋で、MWVに大感謝しつつ、布団にゆったり寝入りました。

十月二日、博士山。早朝六時前ならスズメバチもまだ寝ているかな、と思つて玄関に近づき、確かここいら辺だなと思つて近寄ると、私の頭のすぐ上を突然ブーンと通り過ぎて板の隙間へススッと入っていった黄色いそれが四〜五匹。ゾゾッと竦むや、ソーッと後ろ向きに退散。

針生山荘から一時間チョイ、駐車場までは舗装されていて入りやすい。道海泣き尾根という、わけがわからない名前の道を登り始める。道海も泣くんだからスゲーだろうね、とみんな笑いながら登っていったら、ほんとに泣いてしまった四人であった。ほぼ垂直の崖を鎖やら梯子で登る箇所が、何箇所もずつと、ずつと続く。危険というほどではないが、両手を使うので疲労度は高い。やつと稜線に出ると、今日も天気で清しい。休み休みでしばらく上り下りすると山頂だっ

た。ここも景色は最高。他の登山者は皆無。堪能してから、下山は大きく回りこむ近洞寺尾根と思ったが、距離も長いし時間もかかるし、何より下山口から1kmも林道を戻らなければならぬのが嫌で、道海泣き尾根をそのまま戻ることにした。これが結構足腰手足の筋肉を行使することになり、急降下が終わる水場に来たときにはクタクタになっていた。藪を少し漕いで行った水場の水の美味さは冷たくて格別だった。

「合宿と藪の中、そして文学」

BN 842 金井 良博

■前が悶々(もんもん)しているのを好いことにして、ザックを背負ったまま藪の中でひっくり返っている。ネマガリの藪の壁からぼつかりと覗いた憎らしい青空を見上げながらこう考えた。「理屈を言えば無視される。情をかければ荷が増える。意地を通せば腹が減る。とかくこの部は草臥(くた)れる。」高校時代に、デ・カン・シヨ、マルクスをかじり、級友に導かれてアガベ(アガベ)を聴こうとしていた。それらを何処へやってしまったのだろう。街中を徘徊したトレの汗と酒に漬かった灰色の脳は思惟という機能を停止していた。卒業を迎えても思惟を仕舞い込んだ引出の中を探すこともなかった。山野が職場に、トレが日々の業務へと驚くほど自然に置き換わってしまった。光太郎の「道程」を想っ

ていたのはいつまでだったろうか。在りし日を思い返してみると文学の空間があったことに気がついた。

■或る養成合宿中の未明のこと。先陣が既に出発した後、後発も歩み出そうとして宿地周辺を点検すると、そこに前夜の雨がたつぷりと染み込んだフライが見つかった。先陣にはもう声は届かない。後発の或る2年部員は「天は我を見捨てた」と呟き、自分が当番のポールの上にそのフライを載せた。作家カミュが描き出したこの世界の不条理を彼は弱冠二十歳にして己の心身に刻みつけたであろう。合宿も佳境に入り、かなりの急登から林道に出ようとしていた折に、隊の前方から「バスの来る音がするゾ」と福音がもたらされた。オーという歓喜の呼応が迷える子羊の群から響いた。でも現実には山奥の林道にバスが通っているわけがない。それは林道の補修作業の器具と発電機音であった。道のない急斜面から忽然と現れた異様な一団に作業の人達も唖然とし、「三四郎」達は虚しくジッと手を見て立ち尽くしていた。ところで、映画タクシードライバーのスコセッシ監督の「沈黙」が近く上映されると聞いた。真実の福音をどう映像にするのかとても興味深い。閑話休題、さてフライ事件の本来の当番者と幻の林道バス事件の福音伝道師の正体はいまだに「藪の中」であるという。藪の中は一

般に良い語感でないが、独善で喩えるとな条理に耐える為の緩衝地であり、時折の想念を無期限に保管してくれる貸金庫のような心の施設だと思う。

■3年の夏合宿では伯耆の大山を跋涉した。天候に恵まれ、立場的にも余裕があり清しい印象が残っている山行だった。ピークに向かい両側が切れ込んだ狭い稜線を歩むと眼下には町並みが見えていた。「暗夜行路」では、主人公の謙作が大山登山中に急病となり一夜山中にビバークをし、迎えた夜明けで米子方面を眺望する場面がある。謙作の人生行路の葛藤や不安が神々しい大気に溶解される様が文学史に残る名文で綴られている。重篤な容態の謙作を、夫の心を見失っていた妻の直子が迷いを捨てて折る描写で暗夜行路の幕は閉じる。

■合宿と藪の中には、文学の世界への通路もあったようだ。M W Vの日々は想念の種をたくさんお土産にもたせてくれていた。有り難い。

情けは人の為ならず

BN 823 田住 学

平成二十八年四月、四十年近く携わった教職を定年退職しました。仕事から解放されてのんびりと過ごせると思ったのもつかの間、

相変わらず気忙しくばたばたしている自分が居ます。それは、関係機関から委嘱を受けたまちづくりのコーディネーターであったり、学校園（園・小・中・高）の地域コーディネーターであったり、時には相談員であったりするのです。

このように、頼まれれば引き受けてしまう「よっしゃーマン」の私ですが、折りに触れ思うことがあります。「残りの人生、健康寿命で生きられるのはせいぜい長くて二十年、十五年も生きられたら御の字」と。そうなる、できることは加齢とともに減っていくわけで、「やっておきたいことは、今の内に」となります。しかし、やみくもに欲に任しても、浪費とどこか満たされない自分がいるだけで、心からは満たしてはくれません。

私事になりますが、父が他界してから米づくりをし、今年で二十七年目になります。一貫してコシヒカリを扱っているものの、巷ではコケヒカリとも言われるほど倒れ易い品種です。コケでもコケでも懲りずに作り続けるのは、「うまいから」の一言につきます。ですから秋の実りの時季はわくわくどきどきの毎日、足が自然と田んぼに向かいます。稲穂が頭をもたげる頃から黄金色に色づくまでの間は最高の時で、今までの苦勞も吹っ飛びます。なかでも、色づいた稲穂が秋風にざわつく様子や朝露の重みで稲が傾き、田んぼ一面が波打ったようになる光景は、まさに「実り」であり、至福の時でもあります。

そして、もう一つ懲りずに作り続ける訳があります。それは、収穫を楽しみに待っている人がいるのです。初めはうちは兄弟、叔父、叔母、友だちなどの近しい人を中心に自家米を分けていましたが、そこから子、孫へさらに友だちへと広がり、気がついてみると四十五軒分を賄うまでになってしまいました。六反程から始めた米づくりは、今では三町余り（三ヘクタール）までになってしまいました。ここまできると「何でそこまでするんや。定年後の人生、のんびり過ごしたらええやんか。」という声が聞こえてきそうですが、『やりがい』があるからなんです。私が作った米を食べる人の顔が見え、「うまいわ。また来年も頼むで。」と、殺し文句を言われると単純な私はそれだけでまた一年汗を流せるのです。そしてなお一層「有機・減農薬栽培」に励むのです。そこには損得は存在しません。損得勘定を入れるとやってはおれないからです。機械の大型化を進め、有機・減農薬にこだわらずに資材を限定すると、経費もかさみます。確定申告ではいつも大幅の赤字です。それでも食べていただいている皆さんの顔が浮かびたびに來る年の「稲作暦」が巡り、気持ちはずでに段取りへと向かっていきます。身体は重くても気持ちは軽く、経済的にはマイナスでも心はプラスです。

定年退職をし、予後の人生に想いを馳せだしかけた今、金銭や物だけでは心から満たされない自分があります。米づくりを通してそれ

が何であるかに気づきかけている自分もいます。これからの人生、私利私欲をちよっと横に置き、誰かの為に少しでも役に立っている自分がいたなら、「豊かな人生」を歩み始めたと思えるような気がするのです。

■OBワンデルングのお知らせ 企画振興部

健康と親睦を兼ねたため会ワンデルングは、高齢者も女性もファミリーも気軽に参加でき、安全で楽しいワンデルングをします。来年度は、箱根の歴史散策や高尾山薬王院での精進料理を楽しむワンデルング等を企画しました。奮ってご参加ください。

回数	期 日	地 域	備 考
61回	5月20日(土)	箱根古道	箱根の歴史散策
62回	8月26日(土)	高尾山	薬王院で精進料理
63回	10月28日(土)	丹 沢	前田OBキャンフ場(ファミリー歓迎)
64回	2018年 2月3日(土)	伊豆ヶ岳	奥武蔵W

ワンダーフォーゲルをスポーツ化した 明大の教授と顧問たち

日本山岳会会員 明治大学OB 城島 紀夫

昭和の初期に、明治大学における若き日の春日井 薫教授と三名の部顧問の大活躍があったならば、ワンダーフォーゲルはスポーツの種目とはならなかっただろう。

大学の課外活動の中に、登山を行う山岳部以外の部(クラブ)が生まれることはなかったかも知れない。

現代では、ワンダーフォーゲルは登山を行うスポーツとしてよく知られているが、設立当時にスポーツ化を果たした先輩たちの功績をたずねてみたい。

明大ワンダーフォーゲル部が、わが国で初めてスポーツの一種目として大学の学友会運動部に加入を認められたのは、一九三六(昭和十一)年であり、創部と同年のことであった。

前年に設立された立教大と慶應義塾大のWV部は、両部とも体育会への加入を認められず、文化系に所属していたのである。

明大WV部のBN(バックルナンバー)は、1番が言わずと知れた春日井商学部教授であり、2番が野田孝明法学部教授、3番が出口林次郎奨健会主事、4番が師尾源蔵奨健会委員となっている。

MWVの設立の由来

一九三六年に明大WV部(以下、MWVと略記)が設立されることになった動機は、奨健会ワンダーフォーゲル部の出口主事と師尾委員からの強い勧めによるものであった。一九二八年から駿台あるこう会を主宰していた春日井教授は、創部の経緯について次のように記している。

「当時奨健会を主宰していた出口氏が歩行

奨励運動をおこし、全国にワンダーフォーゲルを作り相当隆盛になった。母校にもこの部がないのは残念と、当時の熱血漢師尾源蔵氏の尽力もあって、駿台あるこう会を母体としてそのまま明大ワンダーフォーゲル部に改組した次第だった(『三十年のあゆみ』より)。

出口主事は母校にワンダーフォーゲル部(以下、WVと略記)の設立を勧めるため、奨健会WV部の委員として活躍中の師尾氏に設立勧誘の交渉を依頼したのであった。

財団法人奨健会は、勤労者(社会人)の体育を奨励するために内務省の外郭団体として設立され、一九三三年に奨健会WV部を組織して地方に支部を設けて活動していた。この当時の体育は、勤労者については内務省が、学生・生徒については文部省が管轄していた。立教と慶應のWV部は、奨健会WV部の歩行会に参加していたYMCA学生会員たちが発起人となって、出口主事の指導を得て設立したものであった。

WVが学友会・運動部に加入

左の写真は、一九三六年二月に行われたMWV部の発会式の写真である。写真の中央に春日井部長、向ってその左に出口顧問、さらに左に野田顧問、そして春日井部長の右に師尾顧問が写されている。

奨健会の会報「奨健ワンダーフォーゲル」(同年三月一日発行)から説明文と共に、「六十年のあゆみ」転載されたものであった。



明治大學ワンダーフォーゲル部發會式

この説明文には、一九三六年二月二十一日に發會式（創立式）が大学記念館四階で開催されたこと、發會式において春日井教授が部長に推戴されたこと、顧問として野田教授（法学部）、奨健会の出口主事兼WV部委員長、奨健会の師尾委員の三氏が委嘱を受けたこと、初代の学生委員長に三本鳴美氏が指名されたこと、などが記録されている。以上の記事は、MWVの創部・発足の模様を伝える唯一の記録だと思われる。

大学の課外活動において新しく部を認可する基準は、原則として一種目につき一部とされていた。このために、先に学友会運動部に所属していた山岳部との活動の違いを学友会関係者に説明して、加入承認を得るための周知・説得活動が必要とされていた。

春日井、野田、出口の諸氏は、射撃をスポーツ化した師尾氏の成功事例ならびに当時の西洋スポーツの普及状況を念頭に置いて、師尾氏と共同してWV部を創設し、同時にスポーツの新種目として学友会に加入することを構想していたものとみられる。

この当時の明大は私学興隆の意気と進取の精神に燃える校風の中で多くの意気盛んな教授や学生が活躍した時代であった。

WVのスポーツ化を進めるにあたって、商学部と学友会関係は春日井教授、法学部関係と学友会関係は野田教授、学友会各部代表者関係は師尾氏と、それぞれに当時の実力ある顧問諸氏の協力と支援が欠かせない状況だったのだと思われる。創立と同時に三名の顧問を置いたのは、右のような事情によるものであったに違いない。

MWVの創設當時に、山岳部との違いを周囲に認知させるために奮闘した先輩たちの足跡を紹介しておきたい。

第一は、班別活動を行っていたことである。春日井教授の「ワンダーフォーゲル回顧録」の中に次のように記されている。

「学生ワンダーフォーゲルは祖国の山野を

親しく遍歴してその自然と人間の営みを愛でるだけに止まらず、学徒として之を歴史的、社会的、経済的そして自然科学等すべての分野から研究的態度で接するという重大な目標を持つていた。ワンデルングそのものを楽しみ、部員の心身の練磨に資すると共に何等かの人間生活と祖国の栄に貢献するところあらんと高い理想をかかげてインテリゲンチヤの集いと云う誇りを持って居た。それ故、当初から各種の班を作り、我々の労作の結果を会報として広く社会へも発表したものであった」とある（部誌第九号）。

第二は、一九三八年にMWVを加えた三大学による全日本学生WV聯盟を発足させたことである。この結成は、他の新興スポーツの競技連盟結成に倣って大学のWV部を普及させること並びにWV活動の社会的な認知を得ることを目的としたもので、会長には当時の東京府知事が、副会長に出口主事が就任した。第三は、MWVが「写真並びに資料展覧会」を開催していたことである。第一回展覧会の記念写真が、奨健歩行会の会報「歩行」一九三八年八月号に載せられている。また翌一九三九年の七月号には、第二回展覧会の模様がくわしく紹介されている。

紫紺の功労者たち

次に「ワンダーフォーゲルのスポーツ化」を成し遂げた紫紺の功労者四氏の経歴を紹介しよう。MWV設立までについては後掲の表・

1を参照されたい。

春日井薫教授

明治大学を代表する学究であり、商学の泰斗といわれた。

明大が自前の専任教授を育成するために設けた給費留学生として米国と英国に留学し、帰国後間もなくゼミを開設し、同時に学生スポーツの振興を急務として文武両道を目指した教育者としてその活動に邁進した。

駿台あるこう会の主宰を継続しながら山岳部長を勤めており、その当時から山岳部のアルピニズとは異なる登山の思潮を抱いていたことが「アイルランドの山の憶ひ出」という文章に書かれている（明大山岳部「爐邊」第一輯）。WV部独自の山小屋を最初に建設したことも、春日井教授の構想の一つであったに違いない。

独立、自治の精神を貫いて多くの人材を育成した教育者であり、現代の大学WVの開祖であり、WV部の部長と監督役を兼ねた指導者であった。

春日井薫教授が指導するMWVのカラーは、立教ならびに慶應のWV部とは異なっていた。奨健会のWVは勤労者を対象として国が主導する歩行運動を展開していたが、MWVの活動目標は独立・自治を旨とするものであった。

新制大学の初代商学部長に続いて学長、大学院長、大学総長を務め、さらに教育研究以

外に大学行政、体育活動、校友会活動など母校の発展に尽力した功労者であった。

出口主事とは同年の卒業生であった。

野田孝明教授

法学部の実力教授であり、私学の権威と誇りのために徹底した反骨精神で行動した闘志タイプの教育者であった。

当時の明大は、教授陣の大半を国立大学出身者が占めており、自前で育成した教授の増加を図っていた。野田教授は、私立大学は国立大学の補充機関ではないという主張をもって活躍し、私学振興の旗手ともいわれていた。

学友会の中にも強い発言力を持ち、権威には反抗して活動する法学部の雄であった。

明大競走部長の経歴もあり、WV部を学友会に加入させるためには欠かせない強力な支援者であり、またWV部設立後の学内への普及に関しても熱心であったようだ。

新制大学の発足にあたり、春日井商学部長と同時に法学部長に就任して明大の発展に尽力した。

当時は非常に少なかった女子の法律家育成にも尽力し、明大女子専門学校長、司法試験審査委員、明治大学短期大学長、駿台体育会顧問、大学院長を経て、晩年には駒澤大学法学部長を務めた。

出口林次郎主事

明大を卒業後まもなく米国とドイツの体育

表・1 部長と顧問諸氏の略歴（1936年まで）

春日井薫教授（BN1）	野田孝明教授（BN2）
1900 愛知県生まれ	1895 愛知県生まれ
1921 明治大学商科卒業、明治大学講師	1918 明治大学法律科卒業
1923 米シカゴ大学院入学	1920 弁護士登録
1924 英ケンブリッジ大学セルウィン入学	1924 明治大学講師
1926 帰国、明治大学助教授（金融論）	1927 明治大学法学部助教授（民法）
1928 明治大学商学部教授	1928 ドイツ留学
駿台あるこう会を開始（当時28歳）	1930 帰国、明治大学助教授
1930 山岳部長（2年間）	1931 明治大学法学部教授
1936 MWV 部部長（当時36歳）	1936 MWV 部顧問（当時41歳）
出口林次郎奨健会主事（BN3）	師尾源蔵奨健会委員（BN4）
1899 北海道生まれ	1897 新潟県生まれ
1921 明治大学法科卒業	1916 明治大学法科入学（4年間兵役）
1922 米コーネル大学留学	1921 復学明大射撃部創設（発起人）
1923 独ベルリン体育大学留学	1924 明治大学卒業
1925 帰国、内務省衛生局常勤嘱託として財団法人奨健会主事	初の関東射撃大会開催（主唱者）
1927 明治大学講師（体育理論）を兼務	1925 学生射撃連盟創設（発起人）
1933 奨健会 WV 部設立、委員長	1933 奨健会 WV 部委員（指導部）
1936 MWV 部顧問（当時37歳）	1936 MWV 部顧問（当時39歳）

大学に私費留学して、西洋の体育施設を調査研究した体育の専門家であった。

帰国した当時のわが国は、西洋スポーツ移入・普及の時代で、多数のスポーツが学校を通じて移入され、スポーツ種目ごとの競技連盟が続々と組織された。屋外体育の勃興期ともいわれる時代であった。

帰国すると同時に奨健会の主事に就任して、各種体育の指導や普及奨励などの事業に従事した後、奨健会の中にWV部を設立して

歩行運動をワンダーフォーゲル運動と呼んで全国的に普及・展開する活動を行っていた。奨健会は太平洋戦争により活動停止の状態となり、戦後に復活することはなかった。

戦後、明大柔道部の部長を務めた。一九四七年に東京都議会議員となり、一九四九年に新制大学の発足に伴い明大教授（商学部）を兼務して体育理論を担当した。東京都オリンピック招致委員会委員長などとして活躍した。

師尾源蔵 校友

射撃をスポーツ化した熱血漢であり、学生射撃の開祖といわれている。

学生時代の一九二一年に発起人となって明大射撃部を創立し、一九二三年にわが国で初めて射撃部を学友会運動部に加入させることに成功した。翌年に、わが国初の射撃競技大会となった関東大学射撃大会を明大射撃部の主催で開催し、翌一九二五年には、同氏が主導して学生射撃連盟を設立して社会の認知を得るための団体として組織化を実現した。

この成果が認められ、同年に射撃競技が神宮競技大会（国民体育大会の前身）に加えられることになって、師尾氏たちの「射撃のスポーツ化」という大目標が達成されたのである。

これらの実績と経験が、後年の「ワンダーフォーゲルのスポーツ化」活動への端緒となったものと考えられる。

奨健会WV部が設立されて以来、出口主事

表2 明治大学体育会各部 創立年表

明治時代	1906 端艇部、剣道部、軟式庭球部、硬式庭球部	1908 弓道部
	1909 競走部	1910 柔道部、硬式野球部 1912 相撲部
大正時代	1913 サッカー部	1919 水泳部 1921 体操部、射撃部
	1922 ラグビー部、山岳部、ホッケー部	1924 ローバースカウト部
	1924 ボクシング部、バスケット部	1925 スキー部、馬術部、スケート部
昭和時代	1930 航空部、バレー部	1932 自動車部、ゴルフ部 1933 卓球部
	1934 レスリング部、アメリカンフットボール部	1935 準硬式野球部
	1936 ワンダーフォーゲル部	1937 フェンシング部、空手部
	1938 ハンドボール部	1941 ヨット部 1947 バトミントン部
	1952 ウエイトリフティング部	1954 拳法部 1958 合気道部
	1961 アーチェリー部	1962 少林寺拳法部

(明治大学体育課編『体育会略史』1982年 より)

の補佐役として全国に歩行団体の設立を勧める委員として活躍を続けていた。

日本ライフル射撃協会の名譽会長として多年の功績を顕彰され、またMWV部がリーダー養成を行っていた新潟県湯沢の高半旅館主人高橋氏を紹介するなど、広く部活動にも積極的な協力を行っていた校友であった。

学生登山の主流となったWV部

現在、全国の総合大学（一一七校）で活動している登山系サークルは、WV部が八四、山岳部が五五となっている（筆者調査二〇一六年一〇月）。

明大においてWV部が設立されたのは、山岳部の設立（一九二二年）からわずか十四年後のことであった（表・2参照）。

全国の大学山岳部が「より高くより困難を」と冒険化に向っていた時代の中で、紫紺の勇士たちは「山岳部に入らなくても登山ができる時代」を切り開いたのであった。

後続の大学WV部は、スポーツ種目として体育会系に加入することが通例となり今日に至っている。

参考文献

松岡三郎「野田孝明教授論」『野田孝明教授古稀記念論文集』明治大学法律研究所 一九六六年
春日井薫先生追悼録『千紫万紅』一九八三年
師尾源蔵「学生射撃そのころ」日本ライフル射撃協会のホームページ
明治大学史資料センター『明治大学小史』二〇一一年
城島紀夫『ワンダーフォーゲル活動のあゆみ―学生登山の主役たち―』古今書院 二〇一五年
城島紀夫（じょうじまのりお）一九三五年佐賀県生まれ。日本山岳会会員、日本山岳文化学会会員。

2016年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 幹事会・忘年会

■日 時 2016年12月17日(土) 12時00分～14時45分 ■場 所 明治大学 岸本辰雄・宮城浩蔵ホール

◆式次第

12:00 幹事会

報告事項

1) 2016年度事業計画進捗状況

幹 事 長 猪狩 稔

財 務 部 長 柳川 俊泰

2) 明治大学針生山荘竣工30周年記念式典

実行委員長 大賀 徹雄

12:30 忘年会

1) 会長挨拶

2) 乾杯

3) 歓談

4) 写真撮影

5) なため斉唱

6) 校歌斉唱

お開き



◆出席者：44名（会員39名、学生5名）

●会員：39名

181 新村 貞男	339 足立 康弘	392 内田 吉成	393 植木 正子	394 中島 禎	395 中山 光史
398 小林 伸行	451 山田 祥二	455 飯村 朋園	477 天野 淑明	489 野村 司	495 深田 裕弘
501 前田 芳弘	505 椎橋 稔	527 池田 陽一	532 鈴木 正彦	558 奥村 勇一	594 秋元 道別
601 池上 勝彦	610 石田 正	661 大賀 徹雄	683 横手 一男	705 杉山 裕	717 住田 孔一
749 並木 勝弥	751 諏訪本充弘	753 小松 宏之	764 高橋 寿子	775 小野田義之	788 原田 博文
792 柳川 俊泰	795 濱田 稔	835 猪狩 稔	838 龍 君江	871 平田 正博	879 井上 稔也
897 山下 仁志	1226 杉山 文啓	2120 鈴木 元典			

●学生：5名

4年 落合 祐太 4年 水本 ケン 4年 宮入 浩 4年 森下 立基 4年 野神 宏太



〔新執行部紹介〕



茅野 真
会計、2班 SL、手白・通信係チーフ
文学部史学地理学科
出身地：千葉県
公文国際学園高等部



落合 祐太
主務、手白係チーフ、3班 SL
文学部史学地理学科
出身地：東京都
都立新宿山吹学校



福土 嶺
主将、衛生係チーフ、1班 SL
農学部農学科
出身地：神奈川県
横浜サイエンスフロンティア高校



乾 真規
3班 PL、衛生・気象・食事係チーフ
政治経済学部地域行政学科
出身地：東京都
都立石神井高校



二宮 竣之輔
2班 PL、針生・送付係チーフ
理工学部電子生命学科
出身地：神奈川県
日本大学付属高校



伊藤 嘉音
1班 PL、装備係チーフ
文学部文学科
出身地：静岡県
静岡高校



宮入 浩
6班 PL、針生係チーフ
理工学部建築学科
出身地：東京都
東京農業大学第一高校



水本 ケン
5班 PL、気象係チーフ
農学部生命学科
出身地：神奈川県
桐蔭学園高校



塚本 惇
4班 PL、写真係チーフ
政治経済学部経済学科
出身地：神奈川県
神奈川総合高校



森下 立基
4班 SL、針生係チーフ
農学部農学科
出身地：千葉県
津田沼高校



二見 遼
4班 SL、写真係チーフ
商学部商学科
出身地：東京都
城北埼玉高校



荒木 清香
3班 SL、手白係チーフ
農学部農学科
出身地：東京都
桐蔭学園高校



村上 彪馬
2班 SL、編集係チーフ
理工学部物理学科
出身地：東京都
東京農業大学第一高校



山本 新大
6班 SL、装備・トレ係チーフ
文学部史学地理学科
出身地：鳥取県
鳥取東高校



山下 寛生
6班 SL、装備・情報係チーフ
情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科
出身地：熊本県
済々黌高校



松井 遥奈
5班 SL、記録係チーフ
農学部農学科
出身地：神奈川県
横浜市立金沢高校



野神 宏太
5班 SL、編集係チーフ
農学部農学科
出身地：東京都
都立立川高校

新主将挨拶

福士 嶺

9月に先輩方が引退し新執行部になり、先日秋合宿を迎えました。今年は6パーティに増え、新執行部初めての合宿の企画ということで各班のパーティリーダーは企画に多くの時間を費やし、無事何事もなく、秋の紅葉を満喫し合宿を終えることができました。

さて、今年の執行部方針は「部の雰囲気を引き締める」と「安全登山の徹底」の二つに決定いたしました。ワングルでの公式行事の参加率の向上、そして後者は個々の山行技術の強化を目標としています。現在気象係や衛生係を筆頭に各種講習を開いて数多くの部員が山行に関わる技術を積極的に学ぼうとしておりとても良い活動が行えています。この活動によって多くの部員が緊急時の対応やパーティリーダーの補助などをできる様になり、より安全な山行が行えれば良いと思っております。私個人としては、このような機会によってより難易度の高い山域や企画に挑戦していけるような一年にしたいと思っています。

話は変わりますが、先日の針生小屋竣工30周年式典では現役一同が大変お世話になりました。

自分達が使用している針生小屋がどのようにして建ったのか、いかにOB、OGの方々が苦勞なされたのかを知ることができたのと

共に、多くのOB、OGの方々から貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な機会でした。これも皆様の日頃のご支援のお陰でありますので現役代表として感謝申し上げます。



ゴキタ沢源頭にて

平成29年度現役指導スタッフ紹介

- 部長…長峰 章
- 監督…諏訪本充弘(175)
- コーチ…井上 堅一(106) 杉山 文啓(122)
- 浜口小百合(273) 諏訪部貴亮(128)
- 前川 晃慶(129)

年間行事予定

- 平成28年
 - 10月 ワーク合宿(済)
 - 11月 秋合宿(済)
 - 2月 スキー合宿
 - 3月 春合宿
- 平成29年
 - 4月 新人歓迎W
 - 5月 新人養成W
 - 7月 初夏W
 - 8月 正部員養成W リーダー養成W
 - 9月 夏合宿(地域未定)

現役部員数

- 準OB
 - 9名(男6名 女3名)
 - 4年 17名(男14名 女3名)
 - 3年 17名(男15名 女2名)
 - 2年 17名(男16名 女1名)
 - 合計 60名

平成28年度卒業生歓送迎会のお知らせ

日時…平成29年2月25日(土) 13:00~15:30
 会場…明治大学 大学会館3階 受付開始…12:30
 会費…6,000円

■山小屋の利用を希望する方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘（手白小屋）

落合 祐太 0800-2017-7960

○針生山荘（針生小屋）

二宮竣之輔 0800-5405-1944

宮入 浩 0800-2044-4217

森下 立基 0800-6754-3757

■主務連絡先

落合 祐太 0800-2017-7960

y.0303.ochi1993@gmail.com

■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、左記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

※今年は会員名簿の改訂（5年に1度）が予定されています。住所を変更された方や住所不明者の消息をご存知の方は、ご連絡願います。

新しい名簿は来年1月発行予定の薫風に同封されます。

総務部アドレス：soumu@natameikai.org

ファックス：03-5539-4245

平田 正博 (87)

住所：〒270-0101 流山市東深井846-58

電話：0900-5811-0189

メール：hita@nikesas.co.jp

■投稿募集のご案内

日頃ご愛読いただき、誠にありがとうございます。薫風では幅広い世代の皆様から投稿を募集しています。

「テーマは問いません」

山やワンデリングにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、大学やクラブと関係ない話題でも結構ですので、どしどしご投稿願います。

「投稿のスタイルも問いません」

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめてください。また、例えばフェイスブックやインスタグラムのように、お写真に簡単なコメントを寄せていただくのも大歓迎です。

「広告も募集しています」

なため会では、OB会費の充実と現役への更なる支援を目的として、広告を募集しています。会員の方だけでなく、ご紹介があれば一般の方の広告も受け付けていますので、お気軽にご利用ください。

「薫風」のプロファイル

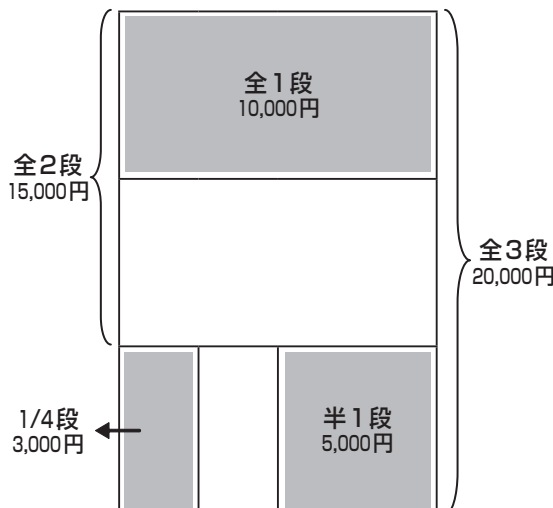
発行時期：原則として1月下旬、7月下旬

(年2回)

発行部数：約900部

前号では上原OBが開設した弁護士事務所の広告を掲載しましたが、例えば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売でご商売をされている

の方からの広告なども掲載させていただきます。スペースと料金は左記の通りです。きちんとした原稿でなくても結構ですので、お気軽にご相談ください。



「応募先について」

次号（第55号）掲載分
締切：6月30日（金）

送付先：巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN 879 井上稔也

住所：〒359-0047 所沢市花園2-2406-65

電話：0700-5466-1152

メール：sda4289@global.ocn.ne.jp

Fax：03-3486-8334

※Faxは共用ですので宛名を明確にして送信願います。

MWV 半世紀前と今

BN 552 坂上 雅彦

1965年(昭和40年)卒業の76歳です。卒業以来50年間はMWVとの関係は同期会「山久会」に参加する以外全く無縁でした。

ところが、歴代のOB・OGと現役部員が一同に会した「奥鬼怒山荘落成50周年式典(2013.10.6)」と「MWV創部80周年記念式典(2015.12.19)」への参加は感動でした。

その二つの式典で、山荘建設資材の荷揚げ合宿に参加した3年部員時代の懐かしい先輩後輩の姿に接したこと。

部歌(なため)・旅鳥・ワンダーフォーゲルの歌を作詞作曲された小林碧大先輩に初めてお会いしたこと。

更には現役部員による今のMWV様子紹介で50年前との違いに驚嘆しました。

因みに山荘建設当時の記録をたどると「網中主将以下172名には女子2個班を含む13班編成にて資材の荷揚げ、建設予定地の伐採、砂利、砂の採集等に従事した。これにより1963年(昭和38年)10月6日、明治大学奥鬼怒山荘が落成した。」と記述されています。比べて50年後(2016年)は部員数・約50数名6個班。男女混性の班編成。女子部員の主将主務の登場。山行装備とサイトワークの違い。などなど。へ比較画像を「おまけ」

します

2016年7月に諏訪本監督の紹介を経て、当時の主将・松田彩友美氏から現在のワングルススタイルを聞く機会が得られた。

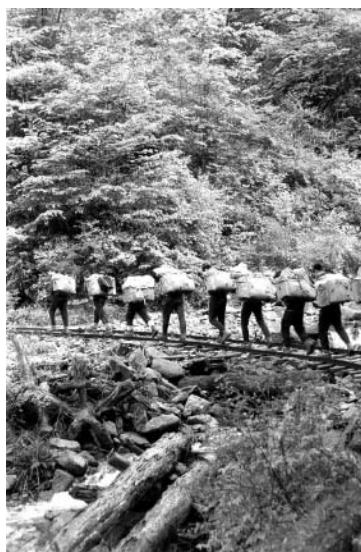
	1964～65年	2016年
ザック	横長布製キスリング	体形幅に合わせた縦長ザック
テント	・「家型」の6人および8～12人収容の布製 ・金属製支柱 ・地表から順にグランドシート、ポディー、フライシート	・ドーム型6～8人収容の化繊製 ・ゴム製支柱 ・シート、ポディー体型+フライ(中に銀マット、エアーマット)
2～3日の山行時の荷重	30～40kg	20～25kg
炊飯時の燃料	サイト周辺の可燃物	ガスコンロ+サイト周辺の可燃物
テントサイトの使用料	無料	有料
班の編成	男女別	男女混成 ※着替ストイレ時は女子の一言「出て行って」でOK

以上の他にも、50年前と現在のワングルススタイルや部員の考え方の違いなどもっと知りたいです。



＜後ろ姿はやっぱりスマートです＞

2015
～16



＜カニ族、なんて言葉もありました＞

1964
～65

2015～16

▽テントは重さも材質も革命的に変わりました



△布製の家型テント 濡れるとホント重かった

▽今も場所によっては薪で炊いています



△昔も今も女子班は美しい（近寄り難い）

▽花沼湿原は男女混成がよく似合います



△何故か当時は麦藁帽子が必須アイテム

1964～65

2015～16

▽女子も一緒なので若干おとなしい？



2016/08/12



△まさに“ガッツク”という感じが・・・

1964～65

お礼状

監督 BN751 諏訪本 充弘

明治大学未来サポーター募金は5つの分野に分けて募集していますが、その一つに体育会を応援するためのスポーツサポート資金があります。昨年、ワンダーフォーゲル部宛に募金をいただいた方にカレンダーを贈ったところ、お礼状が届いたので紹介します。

大倭豊秋津洲大江戸多摩南野3

明治大学体育会ワンダーフォーゲル部監督

諏訪本充弘様

信州合衆国信都長野市川中島四ツ星

中島捷治

拝復大雪も過ぎ本格的な冷雪に時空は移動してまいりました。

この度は明治大学体育会カレンダー恵贈賜り恐悦至極に存じます。大切に来年（三千百五十三万六千秒）を消光したいとおもいます。

半世紀以上に明大にご厄介になり何とか今日まで生き長らえてきました。すこしばかり寄付したのに大変お気を遣って頂き有り難うございます。愚生も無雪期の山は多少行きます。今年の印象は雲の平と長野市の飯縄山（1917M）です。若い学生さんをうまくリードして次世代へ継いで下さい。学生さんによるしくどうぞ 敬具

山々の笑顔は永久にいつわらず
部歌「なため」仰ぎてゆかん真白き峰を

以上全文紹介しました。ご寄付は少しばかりではありませんでした。部歌を知っていることから考えてなにやら我が部に関係した方かもしれません。私の住所ですが、大江戸圏外が正しい表記でしょう。いずれにしてもご寄付及び洒落た礼状ありがとうございました。



「大岡の穂田」(長野市南野)

ながの百景マップ 検索



向春

来福



昭和 39 年度卒業 山久会



訃報

BN 371 和泉良也 O B が平成 27 年 6 月 18 日にご逝去されました。

BN 374 千島陸津喜 O B が平成 27 年にご逝去されました。

BN 453 砺波邦夫 O B が平成 28 年 4 月 22 日にご逝去されました。

BN 90 村田秀雄 O B が平成 28 年 5 月 20 日にご逝去されました。

BN 444 岡 仁 O B が平成 28 年 6 月 4 日にご逝去されました。

BN 600 杉浦忠夫元部長が平成 28 年 8 月 6 日にご逝去されました。

BN 266 本間國義 O B が平成 28 年 9 月 2 日にご逝去されました。

BN 189 星野静夫 O B が平成 28 年 11 月 11 日にご逝去されました。

BN 738 宮澤龍治 O B が平成 28 年 11 月 23 日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

なため会アンケートお礼

幹事長 BN 835 猪狩 稔

前回の「薫風」にて皆様にご協力をお願いいたしました「なため会アンケート」に157名の方からご回答をいただきました。ご多忙の中、誠にありがとうございました。

事業運営部にて集計いたしました結果を皆様に別紙にてご報告いたします。

運営委員会ではお寄せいただきました多数のご意見を参考にすぐに出来る事から改善にとりかかっております。特にご意見が多かった「薫風」、ホームページを担当する広報推進部、「なため会ワンデルング」を企画実施する企画振興部では年末から検討会を開いてより良いものにできるように動いております。

因みに「薫風」では、今号より字体を従来の明朝体から高齢者にも読みやすいタイプのものに改めました。また、一例ではありますが、投稿していただいた方のご協力により、文章だけでなく写真を中心に構成して見るだけでも楽しめる記事も掲載しています。

他にも貴重なご意見をいただいております、改善に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に重ねて各部の運営にご協力いただけました方を募集いたしますので、ご連絡をお待ちしております。

私の連絡先です。

電話：0900-39003-7312

メール：igarim@nifty.com

こんなこと知ってる？



スクールカラー「紫紺」

大正4年4月、本学に初めて校旗が製作された時、木下友三郎校長が紫紺をスクールカラーと決めました。その理由は延喜式(平安時代中期に編纂された格式)からとつたといわれています。つまり「色段の最上位は深紫であり、次いで浅紫、3位は深緋で4位が浅緋である。さらに深緑、浅緑の順になっている。このため、色段の最上位として、又母校の向上の意味を含めて深紫を採用した」……と伝えられています。

ところで、記録を探してみると、古老たちの話に「明治初期頃までは、駿河台の辺りにも野の花が咲き、なかでもひとときわ露草がきわだつていた」という記述が残っています。そういえば、古代から武蔵国から染料として茜や紫を上進した記録もみえますし、又、「茜さす紫野生き 標野行き 野守は見ずや 君が袖ふる」(万葉集)の歌も思い出されます。いづれにしても、このような由来から、紫紺が本学のスクールカラーに定着したものと思われれます。

文責 BN 614 石井 克太

「編集後記」

BN 614 石井 克太

昨年、国際社会ではイギリスのEU離脱に始まり、リオオリンピックの開催、韓国朴槿恵大統領の弾劾可決案が通り、そしてトランプ次期大統領が選出される等々がありました。

国内に目を向けると熊本地震が発生し、ポケモンGOが出現し、大隈東工大名誉教授のノーベル医学賞の受賞が決まり、小池東京都知事が誕生し、築地卸売市場の移転に伴う豊洲市場の諸問題が発生したりしましたが、他に国立西洋美術館が20件目の世界遺産に決定し、なんでも鑑定団で茶碗の「曜変天目」が4個目として出品され、世の中を驚かせました。

私事では今年は孫と3月に京都旅行をすることになり、今から楽しみにしています。また1月で手術をして4年目を迎えました。今年も人類の誕生と古代・中世の歴史を中心に勉強していきたいと思っています。

今年も何が起るか分らない時代になっていますので、お互いに世の中の動きを注意深く見守って行くようではありませんか。

発行日 平成二十九年二月

編集

鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦
石井克太 住田孔一 猪狩 稔
加藤章一 井上稔也 日暮浩美

発行者

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部なため会
印刷所 三協印刷株式会社